

St. Luke's International University Repository

GHQ占領下におけるわが国の看護教育の成立過程: 東京看護教育模範学院の成立と展開

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-03-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 坪井, 良子, 奥宮, 暁子, 平尾, 真智子, Tsuboi, Yoshiko, Okumiya, akiko, Hirao, Machiko メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.34414/00014903

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



GHQ 占領下におけるわが国の看護教育の成立過程

— 東京看護教育模範学院の成立と展開 —

坪 井 良 子¹⁾ 奥 宮 暁 子²⁾ 平 尾 真智子³⁾
石 川 ふみよ⁴⁾ 佐 藤 公美子¹⁾

要 旨

本稿は、連合国最高司令官総司令部（GHQ/SCAP）による占領統治下において、戦後日本の看護教育システムがどのような経緯で成立し展開したのかを、Tokyo Demonstration School of Nursing（東京看護教育模範学院）の成立過程に焦点をあてて、GHQ/SCAP Recordsを中心に分析し、明らかにすることを目的とした。今日の看護教育制度の根拠となった“Nursing Education Council（看護教育審議会）”の審議内容から検討し、東京看護教育模範学院設立に至るGHQ側の意図や会議録、活動内容の詳細、設立後の学校運営の経緯を明らかにした。GHQ/公衆衛生福祉局（PHW）は看護教育の再編に向けて、その諮問機関としてCouncil on Medical Education（医学教育審議会）の発足に続き、1946年3月25日に看護教育審議会を発足させた。その会議の初期段階に、戦後日本の新たな看護教育を展開するためのモデルスクールを東京に設立する事を決定した。そして、聖路加女子専門学校と日本赤十字女子専門学校を合併させた東京看護教育模範学院が1946年6月1日に開校した。東京看護教育模範学院での教育は看護教育審議会の検討過程で決定した、戦後日本の新たな看護教育カリキュラムのもとに行われた。GHQ/PHWは東京看護教育模範学院の看護教員に対して、看護とは何か、看護の機能について等の指導を徹底した。良い看護は良い看護婦によってのみ行うことができると強調し、高度な看護には、優れた知性と豊富な知識と技術、感受性と想像性が必要であると指導した。そして、Professional Nurseとしての任務と責任を学ぶためには、最低3年間の看護基礎教育を必要とするとの方針のもとにカリキュラムが構築されていた。東京看護教育模範学院は戦後日本のモデルスクールとして、体系化された看護教育カリキュラムの実践を示し、さらに日本独自の看護教育を展開する看護指導者の育成に尽力したことは、今日に継続する大きな功績である。

キーワード

東京看護教育模範学院、看護教育審議会、看護教育、看護改革、GHQ/PHW

はじめに

第二次世界大戦後の日本の看護教育は、米国の連合国最高司令官総司令部（以下、GHQ/SCAP）による占領政策の中で画期的な改革が行なわれた。特に女性にとっては、長い間念願であった婦人参政権が至上命令で与えられたように、陽の当たらなかった看護界にも明るい灯が掲げられる事になった。この事実は、現在の看護教育

の基盤を成しているといえる。

GHQ/SCAPの正式な事務が日本で公式的に行われたのは1945年9月17日で、10月2日には連合国最高司令官（SCAP）の総司令部（GHQ）が設置された。従来、占領政策は日本が降伏して後のことであるかのように考えられているが、実際の対日占領政策の形成は、それ以前から占領政策の研究を着手しているという事実が明らかにされている¹⁾。

筆者らは、そうした事実の解明に少しでも近づく事ができるように、GHQ/SCAP側の史実に基づいて蒐集し得た限りの史料中から、日本の看護政策がどのように成立してきたかを明らかにすることを目的として研究を継続してきた。

本研究では、こうした観点から日本での看護改革、と

受付日2003年2月7日 受理日2003年5月14日

1) 山梨大学大学院医学工学総合研究部

2) 大阪大学大学院医学系研究科

3) 東京慈恵会医科大学

4) 東京都立保健科学大学

りわけ看護教育の原点ともされた“Tokyo Demonstration School of Nursing (東京看護教育模範学院)”の歴史的事実に関して、その成立過程をGHQ/SCAP側からの史実に基づいて明らかにすることを目的とした。東京看護教育模範学院の史実については、これまで日本側の資料や証言を中心に紹介されてきた。しかし、GHQ/SCAP側からの研究は行われていない。したがって、東京看護教育模範学院設立に至るGHQ/SCAP側の意図や会議録、活動内容の詳細は明らかではなく、今日の看護教育制度の根拠となった“Nursing Education Council”の審議内容の検討も十分であるとはいえない。

本稿では、これまでに公開された史料に基づいて、東京看護教育模範学院の成立過程について述べていきたい。

I. 研究目的

GHQ/SCAPによる占領統治下において、戦後日本の看護教育システムがどのような経緯で成立し展開したのかを、東京看護教育模範学院の成立過程に焦点をあてて、GHQ/SCAP Recordsを中心に分析し明らかにする。

II. 研究方法

国立国会図書館が所蔵するGHQ/SCAP Recordsの公衆衛生福祉局（以下PHW）と民間情報教育局（以下CIE）の1945年～1951年のSheetsから“Nursing Education” “Nursing Training” “Demonstration School”をKeywordsとして検索し、わが国の看護教育に関する英文書を抽出し分析した。

III. 結果

1. GHQが検討した看護教育改革

—Nursing Education Councilの発足—

1945年10月2日にGHQ/SCAP組織が設置された。この組織は4つの参謀部と9つの幕僚部で構成されており、各々の局が占領目的達成のための必要な措置を立案し実施した。医療に関する改革はGHQ/PHWが担当し、医学教育、看護教育の再編に向けた政策を実施した。PHWの占領任務は、日本国民の健康管理の体系を確立し再編成することであった²⁾。Crawford F. Sams（以下サマス）は、PHWが占領任務を達成するには、看護教育の再編が必須であると考えていた³⁾。そこで、日本の看護職がもつ問題を検討する場が必要であるとして、1946年2月のCouncil on Medical Education（医学教育審議会）の発足に続いて⁴⁾、同年3月25日にNursing Education Council（看護教育審議会）を発足させた。第1回目会議（1946年3月25日）でサマス局長は「専門レベルを高めるには、教育水準を高める必要がある。看護婦の免許は、今よりもより高いレベルのものがなければならない。そのために、十分な資質を有する看護婦を養成するカリキュラムを策定し、看護学校入学資格を高めるこ

とである。二等の看護婦はいてはならず、したがって、二等の看護学校が存在する余地はない。唯一、一つのクラス—等の看護婦だけが必要である」と述べていた⁵⁾。看護教育審議会は検討課題を大きく3つに分け、その各々に小委員会を設けた⁶⁾。会議には、課題内容によって随時適切なメンバーが流動的に参加していたが、メンバーには厚生省、文部省の担当官の他に、看護職も参加した。

1946年4月11日、第2回会議が開催され、看護婦や助産婦の資質と看護学校の入学資格、カリキュラムについての検討がなされた⁷⁾。GHQ/PHWのGrace E. Alt（以下オルト）看護課長は、カリキュラムは3年制で2年間は臨床看護を習得し、3年目は助産婦、保健婦の専門課程を学ぶという案を提示した。日本では従来、看護婦、保健婦、助産婦の取得コースは別々の課程に設置されていた。看護教育の基礎コースを一致させることについては賛否両論であった。厚生省の久下勝次医務局次長は、看護学校の入学水準を上げると看護婦不足がおけると指摘し、井上なつえ氏（看護婦）は訓練を受けた看護婦が出てくれば、数は少なくとも良いと反論した。草間良男氏（医師）は2年で看護婦、3年目に助産婦のコースという案を提示した。様々な提案がなされ、継続審議となった。会議の最後に、オルト看護課長は戦後日本の新たな看護教育を展開するためのモデルスクールを東京に設立する用意があると述べ、すでに米国に指導のためのスタッフや看護婦を要請していると報告した⁸⁾。

表1 GHQ/SCAP Records, CIE Sheet, Memorandum, 18. April. 1946

c. The Japanese Committee and the Nursing affairs Section with to establish a Demonstration Nurses Training School in Tokyo. Major Alt has already made preliminary plans for this project. The Red Cross Hospital will be used and Major Alt feels that a sufficient number of American nurses will be available for a foreign staff. Major Alt called the undersigned officer by telephone on Saturday, 13 April, to inform this Division of projected plan and to secure our concurrence. She stated that the plan was still in embryonic stage, but wishes this Division to be fully informed, and to agree to any steps she may take. It is the opinion of the undersigned officer that the plan is an excellent one and to which this Division could have no objection.

1946年4月24日、第3回会議が開催され、久下医務局次長から看護教育制度案が報告された⁹⁾。その概要は、看護婦、保健婦、助産婦は別々のものとして、捉えるのではなく看護サービスのそれぞれの専門領域として考えるべきであること、新しいタイプの卒業生であることが分かるような称号をつけること、看護学校は一つのタイ

プ college として、履修期間は3年間、高校卒業を入学条件にすべきであること、看護婦組織を既存の三組織を合併させて一つにして、専門分野の部会を作るべきであることが提案された。検討の結果、最終的には3年間の看護基礎教育を行い、助産婦と保健婦に関しては継続トレーニングを必要とすることが決定した。

2. 東京看護教育模範学院の成立

1) 東京看護教育模範学院の開校

看護教育審議会でもルト看護課長が示唆したように、1946年4月22日にGHQ/PHWのJ. U. Weaver (以下ウェイバー) 次長、ルト看護課長、J. V. Zaccane (以下ザコーネ) 法律顧問や、日本赤十字の徳川順社長、島津忠承副社長及び、聖路加病院長の橋本寛敏医師の出席のもとで、聖路加女子専門学校と日本赤十字女子専門学校を合併させた東京看護教育模範学院の開校が決定し¹⁰⁾、4月30日に両校の代表者である徳川氏、橋本氏が調印を行った。この調印式では、GHQ/PHWの指導のもとで聖路加側と日本赤十字社側が協力して学校を運営していくことや、3年間のカリキュラム内容、入学生数、学生の生活に関する財政上の内容を、双方の合意で取り決めていくことを確認した。そして、既に4名の米国看護婦を指導者として要請しており、教員として迎える予定であることが報告された¹¹⁾。

同年6月1日、東京看護教育模範学院の開校式が行われた。サムス局長は開校式に列席し、看護学生に対して、東京看護教育模範学院で行われる看護教育を通じて日本の看護職の水準が向上することを強く望むと述べている。さらに、「皆様は新しいタイプの学校の核を形成する人達であり、この学校が大成功を納め、同様の学校が日本全体に開校されることを願っている」と祝辞を述べた¹²⁾。このサムスの言葉は、東京看護教育模範学院で教育を受けた学生達が、戦後日本の新たな看護の先駆者となるようにとの期待ととれる。また、サムス局長の祝辞には、東京看護教育模範学院の役割が明確に示されていた。

2) 東京看護教育模範学院における教育実践、その運営と内容

開校から2ヵ月後の1946年6月20日に、第1回目の教員会議が日本赤十字中央病院で開催された¹³⁾。教員会議では、「看護とは何か」、「良い看護とは何か」、「看護の職業」についての指導が成された。この会議の中でGHQ/SCAPは、良い看護は良い看護婦によってのみ行うことができると強調した。つまり、「良い看護婦とは、身体的、精神的、情緒的に適合した状態にある者をいい、さらに専門的な教育を受け、看護サービスを専門レベルまで高めるだけの経験を有している者を指す」と述べた。また、「看護という職業は大変有用であり、人類に不可欠なものであると位置付けており、国の福祉は、その精神的、身体的健康によって決まるからである」と述べた。

「高度な看護には、優れた知性と豊富な知識と技術、感受性と想像性が必要である」ことを示唆した。また「看護の機能は、患者の身体的、精神的な快適さを最大限に得るための環境調整や、患者への直接的なケア、医師と共同で実施する事、患者の家族や地域保健サービスと共に実施する事である」とし、看護教育課程において、これらの機能を学習し育成する必要があると指示した¹⁴⁾。これらをふまえて、東京看護教育模範学院の目的は看護実践の中で学生を教育することであり、専門的なベッドサイドでの看護が展開できること、患者の身体的徴候や社会的環境因子を観察し解釈できること、各々の疾病に対処できる専門的な知識と技術を備えていること、健康増進や疾病予防への対処であると明示された。これらを習得することが卒業時の目標であり、Professional Nurseとしての任務と責任であると記されている。GHQ/PHWは、東京看護教育模範学院における教育目標を達成するには、最低3年間の看護教育が必要であり、看護教育カリキュラムには生物学や物理学、社会科学、医科学、看護技術の4分野の教科が含まれていなければならないと指示した。

こうして戦後日本の新たな看護教育カリキュラムが、開校時の東京看護教育模範学院のカリキュラムとして具体化した。開校時のカリキュラムは3年間で、一般科学393時間、医学科目及び看護技術に504時間、衛生学及び公衆衛生看護に150時間など、合計は1478時間であった。そして、病棟実習は92週間、外来実習は16週間(1日8時間、1週間は48時間)が組まれていた¹⁵⁾。看護教育審議会では、より高いレベルの看護婦を養成するためには看護技術と看護方法に多くの時間を当てて、患者の観察と看護実践を行わせることの必要性が検討されていた経緯があり、その教育方針が東京看護教育模範学院のカリキュラムに反映していると考えられる。ここに示したカリキュラムをもとに、その後もカリキュラム内容の検討が随時行われ、わが国独自の看護教育が展開されていった。

開校から1ヵ月が過ぎた1946年7月10日に第一回の幹部会議(Executive Meeting)が開催されている¹⁶⁾。出席者は、GHQ/PHWのウェイバー次長、ルト看護課長、Lt.Thompson(トンプソン)、日本赤十字社の島津氏、聖路加病院長の橋本氏、原泰一氏、大島恒義氏、湯楨ます氏、井上なつえ氏の9名であった。この会議では、今後起こる問題のすべてをメンバー全員で議論して決定することを確認した。議題は、学生の寄宿舎やキッチンの修繕に関する事、ユニホームのクリーニングのこと、学生の食事内容の検討など、学生の生活全般にわたる話し合いが持たれた。

他にも、その目的に応じて、職員会議(Faculty Meeting)、スタッフ会議(Staff Meeting)、看護婦長会議(Head Nursing Meeting)が開催され、学生の教育や生活に関することや病院実習に関する事などが

表2 GHQ/SCAP Record, PHW Sheert, "Curriculum for the three years' course for nurses-Basic course-Tokyo Demonstration College for Nursing" 1. June. 1946

CURRICULUM FOR THE THREE YEARS' COURSE FOR NURSES-BASIC COURSES-TOKYO DEMONSTRATION COLLEGE FOR NURSING (CENTRAL RED CROSS HOSPITAL)

SUBJECTS	TOTAL HOURS	1 st Year	2 nd Year	3 rd Year
GENERAL SCIENCE	393	310	48	35
Anatomy and Physiology	90	90		
Pathology and Bacteriology	70	70		
Biochemistry	45	45		
Nutrition and Dietetics	140	70	35	35
Material Medica	48	35	13	
MEDICAL SCIENCES AND NURSING ARTS	504	241	235	28
Nursing History and Ethics	28	28		
Nursing Principles	90	90		
Medical Disease & Nursing	60	40	20	
Surgical Disease & Nursing	70	45	25	
Massage	18	18		
Emergency Nursing & 1 st Aid	16		16	
Operating Room	32	20	12	
Pediatrics & Pediatric Nursing	50		50	
Communicable Disease ins. TB	40		40	
Gynecology	16		16	
Skin Disease & Urology	16		16	
Veneral Disease	8		8	
Eye Disease	8		8	
Nose, Throat Disease	8		8	
Psychiatry	28			28
Psychotherapy	8		8	
Dentistry & Dental Nursing	8		8	
Hygiene & PUBLIC HEALTH NURSING	150	25	25	100
Public Health Nursing	35	5	10	20
Environmental & Industrial Hygiene	25			25
Maternal & Child Welfare	35		15	20
School Hygiene	25			25
Physical Examination Method	10			10
Personal Hygiene	20	20		
OBSTETRICS AND MIDWIFERY	120		35	85
Natural Pregnancy & Delivery	60		35	25
Abdominal Pregnancy & Delivery	40			40
Phantom Practice	20			20

SOCIAL SCIENCE AND EDUCATION	TOTAL HOURS	1 st Year	2 nd Year	3 rd Year
Pedagogy and psychology	311	70	105	136
Sociology & Social service (included Social service case methods, insurance)	70		35	35
Sanitary Jurisprudence	16			16
Vital Statistics	15			15
TOTAL HOURS	1478	646	448	384

PRACTICAL EXPERIENCE	WARD	OPD	WARD	OPD	WARD	OPD	WARD	OPD
Surgical Nursing	12	2	12	2				
Medical Nursing	12	2	12	2				
Pediatric Nursing	12	2			12			2
Obstetrical Nursing (ins. Gynecology)	12	2					12	2
Communicable Disease ins. Tuberculosis	12				12			
Operating Room	8				8			
Diet kitchen	4		4					
Psychiatry	4						4	
Eye Nursing		2				2		
Ear, Nose, Throat		2				2		
Dental		1				1		
Physiotherapy		1				1		
Skin - Veneral Disease		2						2
Public Health Nursing	12						12	
Social service	4						4	
TOTAL HOURS OF WEEKS	92	16	28	4	32	6	16	22

表3 GHQ/SCAP Record, PHW Sheert, "Tokyo Demonstration school of Nursing, Weekly Reports, August 12-17"

12-17 August

Monday

Conference

Aiiku Hospital

Dr. Saito

Miss Yumaki

Miss Inanye

Miss Thompson

(Report included)

Tuesday

Conference

Maj. Alt

Miss Inanye

Miss Thompson

A uniform and cap for the students of the Demonstration school was chosen.

Miss Inanye is to check on available material.

Conference

Dr. Ohshima

Miss Inanye

Miss Thompson

Miss Yumaki

Discussion of the student affiliation with Aiiku hospital for pediatrics.

A letter was sent to Dr. Saito, confirming the agreement.

Discussion of the need for psychiatric affiliation, next semester for 4th year students.

Discussion of students uniform. Dr. Ohshima will check to see if there is.

Wednesday

Conference

Matsuzawa Psychiatric Hospital,

Dr. Muramatsu, supt of hospital

Miss Inanye

Miss Thompson

Miss Yumaki

(Report included)

Thursday -

Friday

Staff meeting

Discussed charting and daily routine of the ward.

Hospital census

9 August

16 August

In patients

182

190

Out patients dept

700

599

Students nurses menu (included) 15 Aug.

Breakfast

Suiton

flour
egg plant
cucumber
fudamso
clams
salt
soy sauce

Lunch

Suiton

Sausage
sausage
flour
cucumber
garden radish
onion
butter
canned salmon
dried fish

Supper

Suiton

Cooked herring and bamboo sorouts

flour
corn flour
bamboo sprouts
egg plant
herring
salt
powdered soy sauce

dried fish

cucumber

Total calories per capita 1461

Reports of Student Uniforms

White cotton material, 3710yards at 42 inches wide, bought from

Nippon Clothing Control Co.

(Nippon Iryo Tosie Kaisha)

Odenma cho, Nihonbashiku

They are making sample uniform to deter mint, time element, cost and amount of material. The uniform will approximately take 2,3 yards.

随時検討された。これらの会議録は、すべて PHW から GHQ/SCAP 本部へ報告されていた。特に、週報 (Weekly Report)、日報 (Daily Report) として報告されていた事柄は、実習病院 (精神科実習の松沢病院、小児実習の愛育病院、日本赤十字中央病院など) の入院患者数と外来患者数、各出身学校からの学年毎の学生数と病欠者数、学生の実習状況、学生の 1 日の摂取カロリー数であった。学生の食事のメニューは、主食は大概が 3 食「Suiton (すいとん)」で、1200~1600kcal/日程度であったことが GHQ/SCAP 文書から見て取れる。

GHQ/PHW の指導の下、東京看護教育模範学院は戦後の新たな看護教育を展開するモデルスクールとしてスタートした。そして、この学校の成功は運営する日本スタッフに向けられていた。聖路加病院長の橋本氏と日本赤十字女子専門学校校長の大島恒義氏は、日本赤十字中央病院と聖路加病院が協力して実績をあげる責任があることを示唆していた。また、サマス局長は東京看護教育模範学院が成功することで、二つの病院は看護教育分野のリーダーとして認められ、日本の新しい生活の構築に非常に重要な貢献をすることができると述べている。

3. GHQ による東京看護教育模範学院、開校後の視察

東京看護教育模範学院の設置から 1 年が経過した 1947 年 8 月から 12 月の間は、GHQ/PHW のオルト看護課長が来訪者を連れて学校の視察に頻回に訪れている。来訪者は、学校設立に尽力したロックフェラー財団の Dr. MacQuarrie (マッコイ博士)、GHQ/CIE 教育課で成人教育を担当する Mr. Donald (ドナルド) や、府県軍政部の軍政官らであった。オルト看護課長は看護学生の寄宿舎や実習病院、また教室やキッチンなどの学校施設を視察した。そして、構築した看護教育カリキュラムの実施状況を説明した。開校から 1 年間が経過し、東京看護教育模範学院は、その目的であった看護学校のモデルとして、多くの視察を受け入れていた。そして、地方においても同様の学校を運営するように示唆を与えたものと考えられる。

IV. 考 察

1946 年 6 月の東京看護教育模範学院の開校と並行して、新しい日本の看護制度と看護教育のありかたが看護教育審議会で継続審議された。戦後の看護教育のカリキュラムは東京看護教育模範学院において、新しい日本の看護教育実験校として実践された。それは、看護教育方法や技術の開発を教育現場において実験的に行う、デモンストレーションスクールの設置と学校教育制度上の位置づけであり、GHQ/PHW 看護課がそこで行われる教育実践を実験として意識しながら行ったもので看護教育の変革期に設置された。GHQ/PHW 看護課で計画された看護教育のデモンストレーションスクールとは、占領下における看護教育に特有のものではなく、占領下の日

本の普通教育である小学校、中学校、高等学校においても多く行われている実験校の一種であった。実験学校は、モデルスクール、デモンストレーションスクール、トライアウトスクール、調査研究指定校などの学校を総称したもので、占領下において多数設置され、新教育の推進と現職教育のための学校であった。東京看護教育模範学院の学校教育制度上の位置づけは College であり、アメリカでは高等教育を行う単科大学 (学部レベルの教育を行う) のことを意味する。当時、聖路加女子専門学校での英文表記は“COLLEGE OF NURSING ST. LUKE'S INTERNATIONAL MEDICAL CENTER”であり¹⁷⁾、日本で唯一の高等教育機関であった。

東京看護教育模範学院のカリキュラムは、日・米 8 つの看護学校のカリキュラムを参考にしながら作成されたものである¹⁸⁾。なかでも聖路加女子専門学校 (厚生科課程) のカリキュラムが特に参考にされたものと考えることができる¹⁹⁾。

最終的には東京看護教育模範学院は 3 年制で臨床看護に助産、保健指導を加えた総合看護の理念をもつカリキュラムで運営されることになった。当時オルト看護課長と一緒に看護改革に携わった金子光氏は、のちに「このような総合看護の理念をもったカリキュラムはエール大学のカリキュラムからきているのではないかと語っている²⁰⁾。オルト看護課長は、エール大学での再教育受講者でもあった²¹⁾。

日本赤十字社救護看護婦養成所は、戦前に高等女学校卒業者を入学資格とし高等教育に準ずる教育を行っていたが、学校制度上では各種学校であった。東京看護教育模範学院の開校にあたって、急速専門学校に昇格し、日本での 2 番目の高等教育機関になったことは、新たな教育の道を切り開く端緒となったともいえる。その意味で、東京看護教育模範学院は、その後の日本の看護教育の学校制度上の位置づけに一つの方向性を与えたものといえる。さらに模範学院での教育は学科目だけでなく、看護学生の生活面全般にわたって全国の看護学校のモデルとなるものであった。

おわりに

本稿は、GHQ/SCAP による占領統治下において、東京看護教育模範学院の成立経緯を基に、戦後日本の看護教育システムの成立過程を、主に占領側の史実から明らかにしてきた。戦後のわが国の看護教育システムやカリキュラムの展開を検討するために、さらに史料を探索していく必要がある。

(本研究は、2000-2002 年度文部科学省科学研究費補助金基盤研究 (C)「占領期における日本の看護政策に関する基盤的研究」の成果の一部である。また、第 7 回聖路加看護学会学術集会で報告したものに加筆修正したものである。)

引用文献

- 1) 竹前栄治：GHQ, 岩波書店, 45-46, 1983
- 2) 竹前栄治, 笹本征男：GHQ・PHWの組織と人事, 東京経済大学会誌, 156: 267-285, 1988
- 3) GHQ/SCAP Records, CIE Sheet, "Report of Conference 25, March 1946, Public Health and Welfare Section", 26. March. 1946
- 4) GHQ/SCAP Records, CHS Sheet, "Organization of Council on Medical Education, 27, February 1946", 1. March. 1946
- 5) GHQ/SCAP Records, CHS Sheet, "Nursing Education Council, Report of first general meeting", 25. March. 1946
- 6) 5) ibid
- 7) GHQ/SCAP Records, CIE Sheet, Meeting of the Council on Nursing Education, 11. April. 1946
- 8) GHQ/SCAP Records, CIE Sheet, Memorandum, 18. April. 1946
- 9) GHQ/SCAP Records, CIE Sheet, Meeting of the Council on Nursing Education, 24. April. 1946
- 10) GHQ/SCAP Records, PHW Sheet, "Conference re Demonstration School program for Nurses" 22. April. 1946
- 11) GHQ/SCAP Records, PHW Sheet, "AGELEMENT", 30. April. 1946
- 12) GHQ/SCAP Records, PHW Sheet, "To the Students Nurses" 1. June. 1946
- 13) GHQ/SCAP Records, PHW Sheet, "Faculty Meeting—Central Red Cross Hospital" 20. June. 1946
- 14) GHQ/SCAP Records, PHW Sheet, "Briefly care of the functions of the nurses" 20. June. 1946
- 15) GHQ/SCAP Records, PHW Sheet, "Curriculum for the three years' course for nurses-Basic course-Tokyo Demonstration College for Nursing" 1. June. 1946
- 16) GHQ/SCAP Records, PHW Sheet, "Executive meeting of Model Demonstration School" 10. June. 1946
- 17) J. A. ドラン, 小野泰博, 内尾貞子訳：看護・医療の歴史, 誠信書房, 374, 1978
- 18) Akiko Okumiya. et. al. : Establishing a Model Nursing Curriculum : Study of Materials during U.S Occupation in Japan, Fourth International Nursing Research Conference August 29-31, 227, 2001
- 19) ドラン：前掲著18) アメリカにおけるカリキュラムについては362-367参照
- 20) 金子光：初期の看護行政—看護の灯たかくかかげて, 日本看護協会出版会, 12, 1992
アメリカの看護教育の歴史については, Alkin, M.Ced, Encyclopedia of Educational Research (6th edition), vol3, American Educational Research Association, 1992. よりNursing Educationの項目921-928参照
- 21) 大石杉乃：占領下の日本における看護政策に影響を与えたオルト看護課長の日本進駐までの経歴, 東京都立医療技術短期大学紀要, Vol6, 91-119, 1993.

The process by which nursing education was established under the Occupation : The establishment and development of the Tokyo Demonstration School of Nursing

Yoshiko Tsuboi

(Interdisciplinary Graduate School of Medicine and Engineering, University of Yamanashi)

Akiko Okumiya

(Osaka University, Graduate School of Medicine)

Machiko Hirao

(Jikei University School of Medicine)

Fumiyo Ishikawa

(Tokyo Metropolitan University of Health Science)

Kumiko Sato

(Interdisciplinary Graduate School of Medicine and Engineering, University of Yamanashi)

The purpose of this manuscript is to study the process of the establishment and development of the Japanese system of nursing education after WWII under the auspices of the General Headquarters of the Supreme Command of the Allied Powers (hereto referred to as GHQ/SCAP) by focusing on the process of the establishment of the Tokyo Demonstration School of Nursing, primarily through analysis of GHQ documents. From our investigation of the deliberations of the Nursing Education Council, which formed the basis of the nursing education system in Japan today, we clarified the process by which the Tokyo Demonstration School of Nursing was established. We looked at the intentions of the GHQ, minutes of the meetings of the Council, details of its activities, and operations of the school after its establishment. In order to reform nursing education in Japan, the GHQ and the Bureau of Public Health and Welfare (PHW) first established the Council on Medical Education to address the numerous issues involved, and then established the Nursing Education Council on March 25, 1946. At the early stages of their meetings, the Nursing Education Council decided to establish a model school in Tokyo in order to develop a new type of nursing education in postwar Japan.

The Tokyo Demonstration School of Nursing opened on June 1, 1946. It was formed by combining St. Luke's College of Nursing with the Japan Red Cross Central Hospital of Training. The type of education to be provided at the Tokyo Demonstration School of Nursing was decided by the deliberations of the Nursing Education Council and became the new nursing education curriculum of postwar Japan. The PHW emphasized to the teachers at the Tokyo Demonstration School of Nursing the importance of teaching what nursing is and what the functions of a nurse are. They emphasized that good nursing can only be provided by good nurses and taught that excellence in nursing comes from a high level of knowledge and rich experience and skills, and that sensitivity and imagination are essential. The curriculum at the Tokyo Demonstration School of Nursing was built on the idea that it was necessary for the basic nursing curriculum to last a minimum of 3 years in order for Professional Nurses to learn all they need to carry out their duties and responsibilities.

The Tokyo Demonstration School of Nursing, as a model school in postwar Japan, demonstrated the practical application of a systematized nursing curriculum. Its effort to train nursing educators who would develop a nursing education system unique to Japan was a great achievement for the continuation of the nursing education system through today.

Key words

Tokyo Demonstration School of Nursing, Nursing Education Council,
nursing education, nursing reform, GHQ/PHW